

# 「伊勢志摩国立公園 ステップアッププログラム2030」の 検討・作成について

伊勢志摩国立公園のコンセプト

悠久の歴史を刻む伊勢神宮 人々の営みと自然が織りなす里山里海

令和7年7月

# もくじ

1. 昨年度の振り返り

2. SUP2030策定スケジュール

3. 次期ステップアッププログラム策定方針案

4. 次期ステップアッププログラム骨子案

# 1. 昨年度の振り返り

# 昨年度の振り返り：伊勢志摩国立公園ビジョン



詳細は解説ハンドブック参照

## ■伊勢志摩国立公園ビジョンとは

- 伊勢志摩国立公園の10年後、20年後の将来像。
- 目指すべきゴール。未来のあるべき姿。
- 伊勢志摩国立公園の方向性を決定づけるもの。
- 具体的には、どのような状態を実現したいのか、どんな価値を提供したいのかを明確にするもの。

→ 伊勢志摩国立公園に関わる全ての人が、共通の目標に向かって進むための指針、意思決定の基盤となる

## ■伊勢志摩国立公園ビジョン検討・作成のプロセス

- 令和6年度第1回伊勢志摩国立公園地域協議会において、伊勢志摩国立公園ビジョン策定方針や現状把握調査を行うことを決定しました。
- ビジョン検討の前に現状把握のためのアンケート調査等を行いました。
- 地域協議会構成員・アドバイザーから推薦いただき、10年後20年後に伊勢志摩をひっばる若者たちに検討に加わっていただき、ビジョン案をとりまとめました。
- 第2回伊勢志摩国立公園地域協議会において伊勢志摩国立公園ビジョンを策定しました。

第1回地域協議会

検討メンバーの推薦・決定

関係者へのアンケート調査・分析  
関連データ・既存計画等情報収集・分析

ビジョン検討ワークショップ開催  
(全3回)



ビジョン(案)作成

第2回地域協議会

ビジョン決定

# 昨年度の振り返り：伊勢志摩国立公園ビジョン

## 「つなげるわ、ひろげるわ、 未来につなごう伊勢志摩国立公園」

「私（個性）」「輪（つながり）」「和（調和）」の三つの「わ」が重なり合い、新たな未来を創る姿を表現しました。

### 1. 私が輝く

住む人も訪れる人も、一人ひとりが輝き、周囲を尊重しながら挑戦し成長する国立公園を目指します。「私らしさ」が調和の中で最大限に発揮される国立公園を目指します。

### 2. 人と自然の輪がつながる

人々をつなぎ、人と自然が共に生きる喜びの「輪」を広げます。自然への敬意を忘れず、共存する意識を高めます。多様な人と自然の交流により希望ある未来を創造する国立公園を目指します。

### 3. 地域の誇りと和が育まれる

受け継がれる文化、自然、歴史を大切に守り、地域一体となって未来へと伝えます。「変わらずに、変わり続ける」精神を基盤に、「心がかえりたい」国立公園を目指します。

#### ～ 検討メンバーの想い～

「わが」には「私の」という意味があります。そこから、「私」だけでなく他の人も尊重し、「わが」が2つつながって共に輝く「わがわが」にしようという希望と覚悟の気持ちを、このビジョンに込めました。

「伊勢志摩の未来を見据え、強い信念を持って取り組む」「伊勢志摩の将来を担う」方々を検討メンバーに迎え、3回のワークショップによる熱い議論、検討の末、ビジョンを作成しました。



昨年度の振り返り：アンケート調査結果

## ■伊勢志摩国立公園ビジョン検討のためのアンケート調査 結果概要

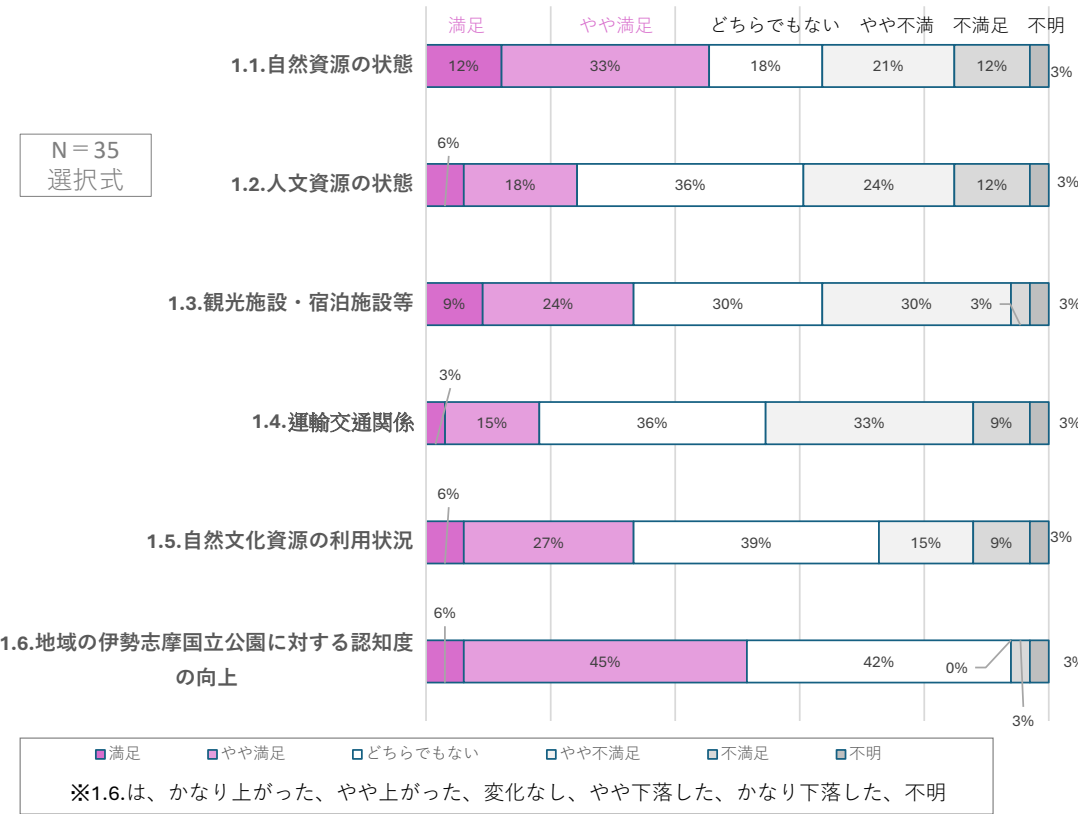
ビジョン検討に資するため、国立公園関係者の10～20年程度を振り返っての評価（現状の満足度）を明らかにし、ビジョンに盛り込むべき要素として国立公園関係者の思いを広く収集することを目的として、アンケート調査を行いました。

- ・アンケート実施期間：令和6年8月21日～10月7日
- ・対象者：伊勢志摩国立公園地域協議会構成員及びアドバイザーの皆様
- ・回答数：35件

# 昨年度の振り返り：伊勢志摩国立公園ビジョン検討のためのアンケート調査結果

## 過去10～20年を振り返っての評価： 伊勢志摩国立公園の現状の満足度

N = 35  
選択式

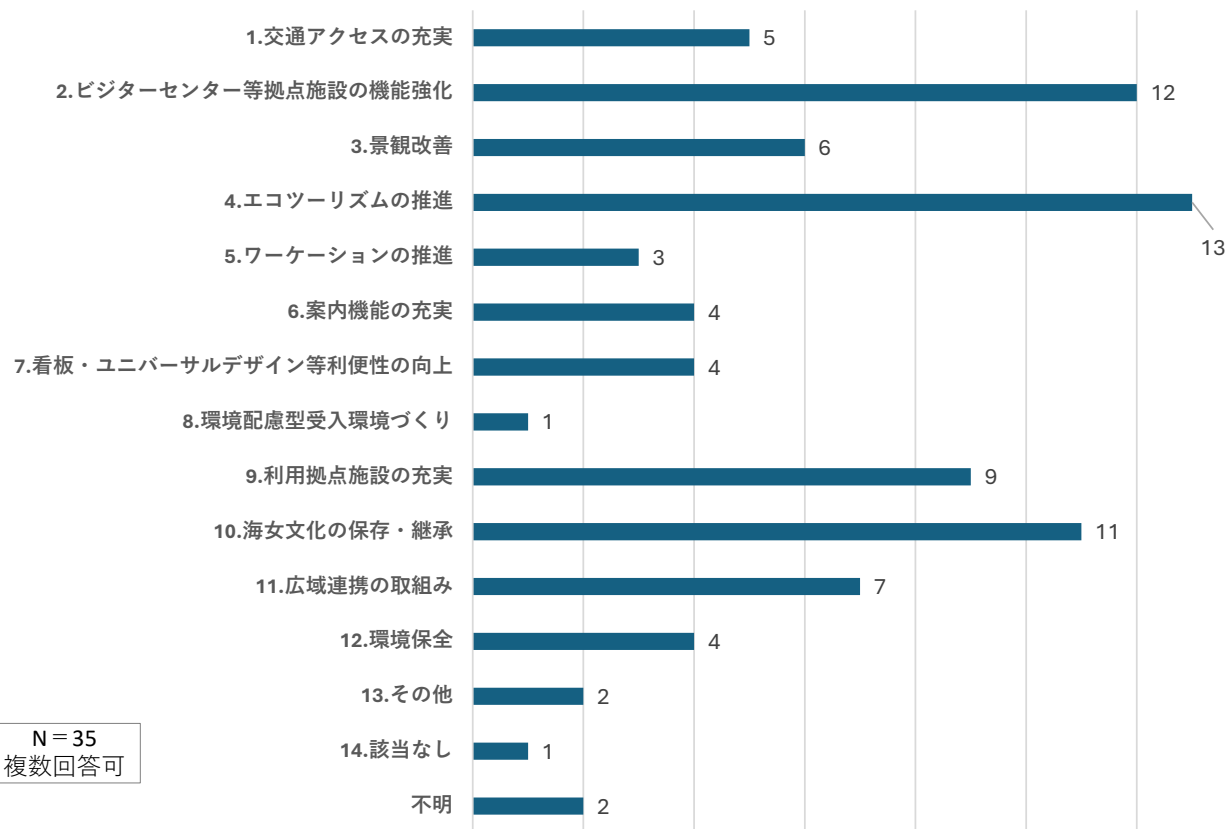


### ■理由・意見（抜粋）

- 景観や動植物など守るべき資源は一定水準の維持ができている
- 展望台の整備や自然資源を活かした取組みは当時より進められている
- 伊勢神宮を中心とした自然環境が守られている
- 太陽光発電施設の乱立（緑の山が失われ、海への土砂の流入など）
- 磯焼けで海藻・海草が減少し生物多様性が失われ、漁業、海女漁に影響
- 干潟減少、漁獲量の減少などの話をよく耳にするようになった
- 昔はなんでもないものと雑に扱われていた景観も、昨今では大切なものとしてきちんと遺していけるような意識が生まれていると思う
- ワークーション利用が進み、地域の人と地域外の人との交流が増えた
- 祭りや風習、地域産業は人口減少により維持が難しくなっている
- 人口減少により、里山の保全が心配
- 海女の数減少。海洋環境の影響からカキの閉塞死が増えて、カキ養殖業者が減少。真珠養殖業者も減少している

# 昨年度の振り返り：伊勢志摩国立公園ビジョン検討のためのアンケート調査結果

過去10～20年を振り返っての評価：  
**良い結果が得られたと思う取組**



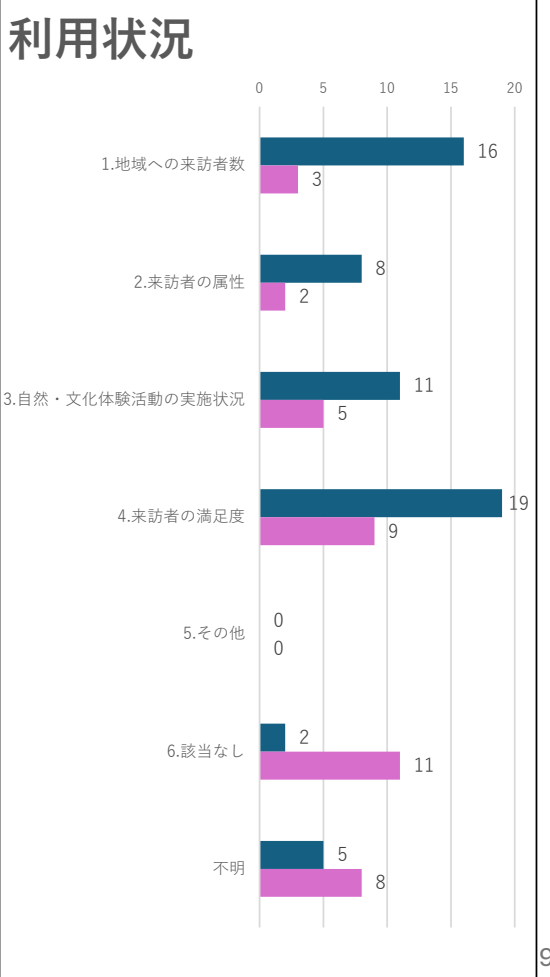
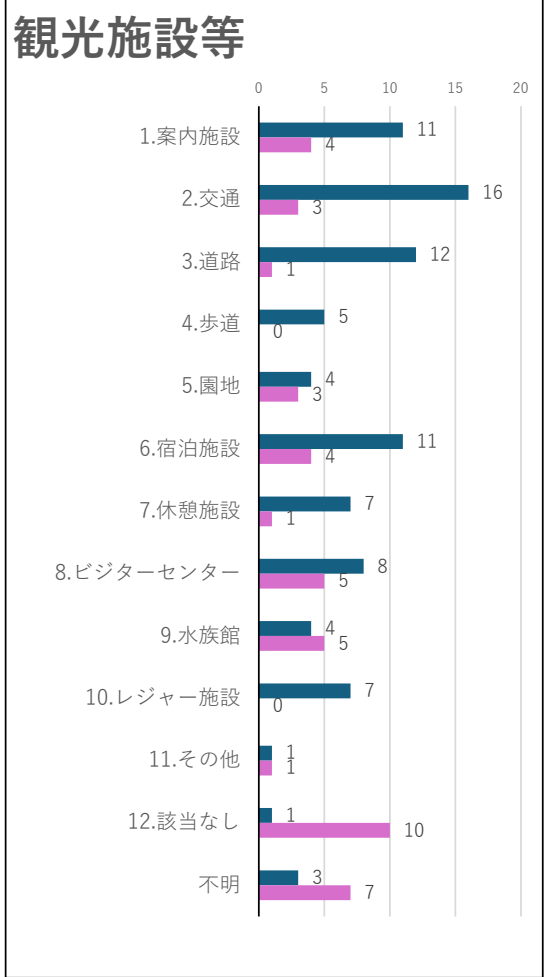
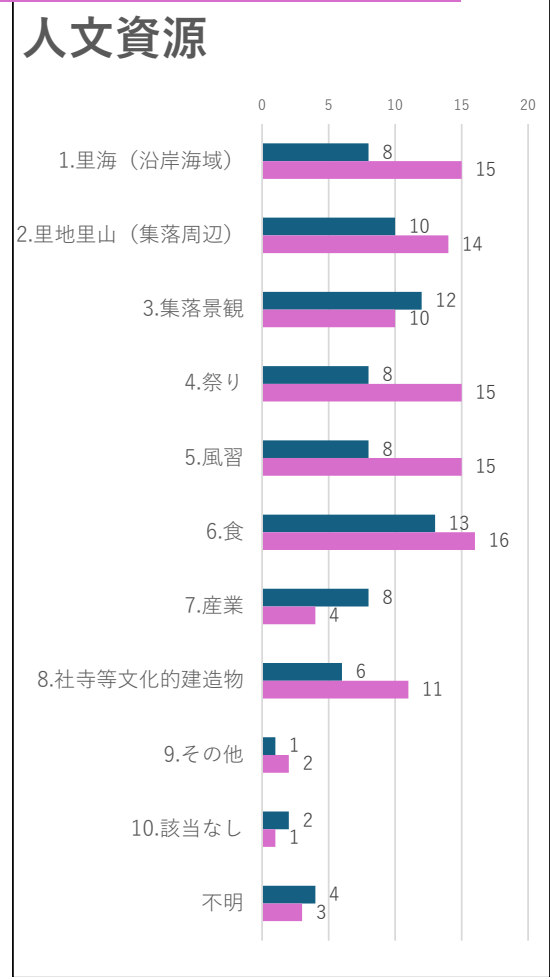
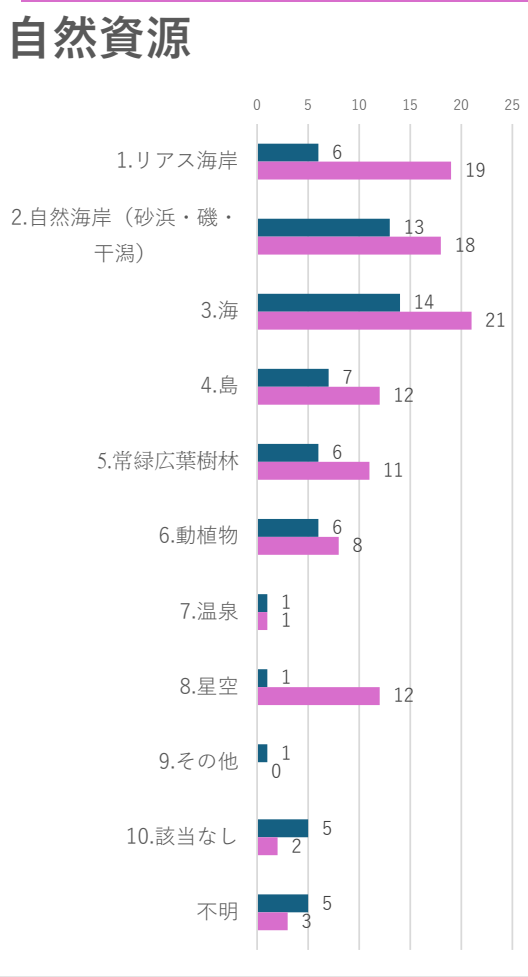
N = 35  
 複数回答可

- 挙げられた具体事例等（抜粋）
- 横山展望台、横山ビジターセンター、及び横山周辺整備
  - 鳥羽ビジターセンター移転
  - エコツーリズムの推進や自然体験の充実
  - 鳥羽市立海の博物館の敷地内に三重大学海女研究センターを設置
  - 海女サミットの継続開催
  - 白滝大明神の活用
  - 南伊勢町の展望台付近のブランコ整備
  - 伊勢志摩サミット
  - ゴルフ場の利活用
  - 多目的トイレの整備
  - 情報発信の改善
  - 答志島トロさわらのブランド化
  - ワーケーション推進
  - 観光特急しまかぜの導入
  - YoutuberやVtuberなどSNSを活用した観光客の誘致

# 昨年度の振り返り：伊勢志摩国立公園ビジョン検討のためのアンケート調査結果

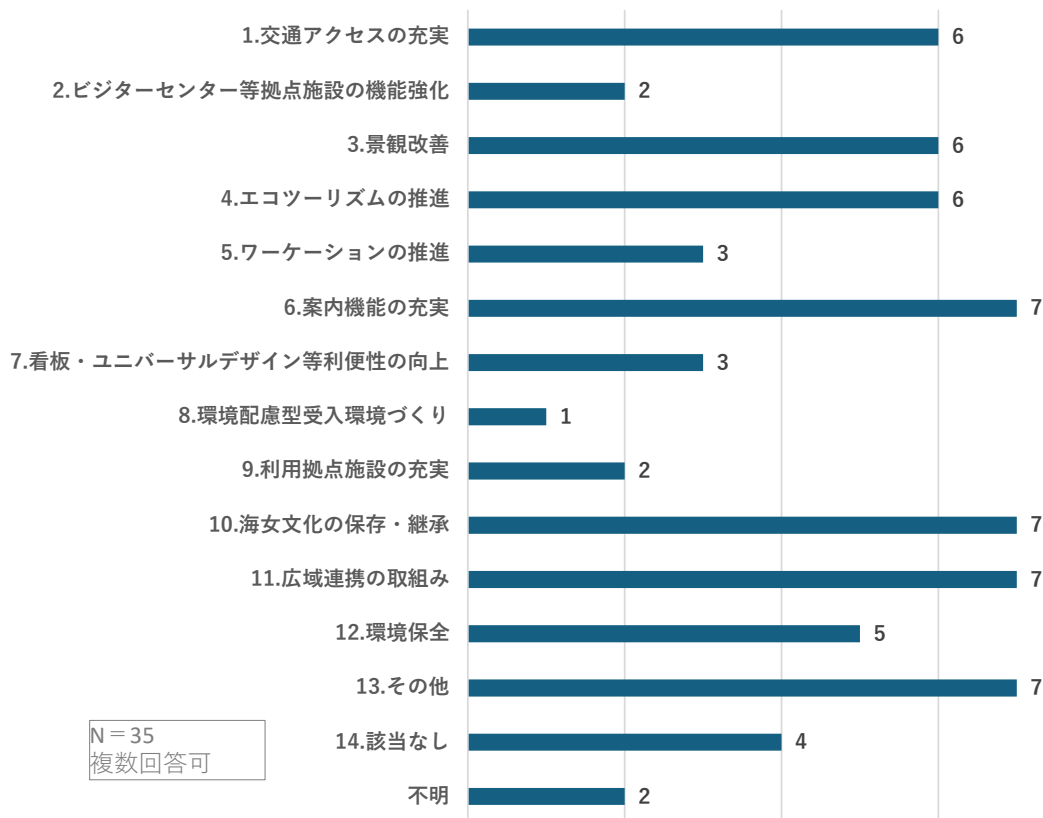
- ① 10年後、20年後までに改善又は変化を期待する点
- ② 変えたくない点または未来へ引き継ぎたいもの

N=35  
複数回答可



# 昨年度の振り返り：伊勢志摩国立公園ビジョン検討のためのアンケート調査結果

## あなた自身又は、あなたの所属する組織が貢献可能なこと



### ■ 挙げられた具体的事例等（抜粋）

- 利用状況や来訪者動向を踏まえたダイヤ編成・車両タイプの選別等、固定観念にとらわれず柔軟かつ敏速な対応
- 木製ガードレールの導入による景観改善
- 関係のホテル、旅館でのワーケーションプランの増設や推進
- 効果的な印刷物の配置、窓口案内の充実、ボランティアガイド等による文化の伝達、ウェブサイトでの発信
- インバウンドに対応した多言語看板の設置
- 賛同の得られた海女集落を対象として、伝統的な集落景観の保全継承のために景観計画に基づく重点地区へ、さらに文化的景観の指定に向けて尽力
- 伊勢志摩国立公園指定周年事業を継続
- 環境保全活動に参加

## 昨年度の振り返り：伊勢志摩国立公園ビジョン検討のためのアンケート調査結果

アンケートの自由回答から、伊勢志摩国立公園に関する課題として、以下のよう  
な点が挙げられた。

### 自然環境の保全

- ・ **磯焼け問題**：海水温上昇などによる磯焼け。海女漁などに影響を与えるため、対策が急務。
- ・ **太陽光発電施設**：広範囲にわたる開発が景観や環境に悪影響を与える懸念される。
- ・ **国立公園としての認識不足**：住民や来訪者にとって、地域の価値を十分に認識できる仕組みが必要。

### 観光と地域の調和

- ・ **インバウンドの対応不足**：多言語案内や受け入れ体制の整備が必要。
- ・ **オーバーツーリズムの懸念**：過度な観光客の増加による環境負荷や地元との摩擦が懸念される。

### インフラとアクセス

- ・ **二次交通の整備不足**：離島や観光スポットへのアクセス改善が必要。

### 文化・地域資源の継承

- ・ **伝統文化の継承**：祭りや風習を次世代に引き継ぐ仕組みが必要。
- ・ **海女文化の保護**：観光資源としてだけでなく、生活の一部として残していく工夫が必要。
- ・ **地域住民の関与が少ない**：地元の人が自然や文化に触れる機会が、観光客ほど多くない。

⇒自然環境・景観の保全や、文化の継承が課題として認識されている。  
(民有地96%が特徴の、人が暮らす国立公園の姿の継承が必要)

昨年度の振り返り：「伊勢志摩国立公園ビジョン検討のためのアンケート調査結果」より

■ 伊勢志摩地域の現状に満足している割合は少数

✓ 課題が多数あるが、具体策が難しいものもある。

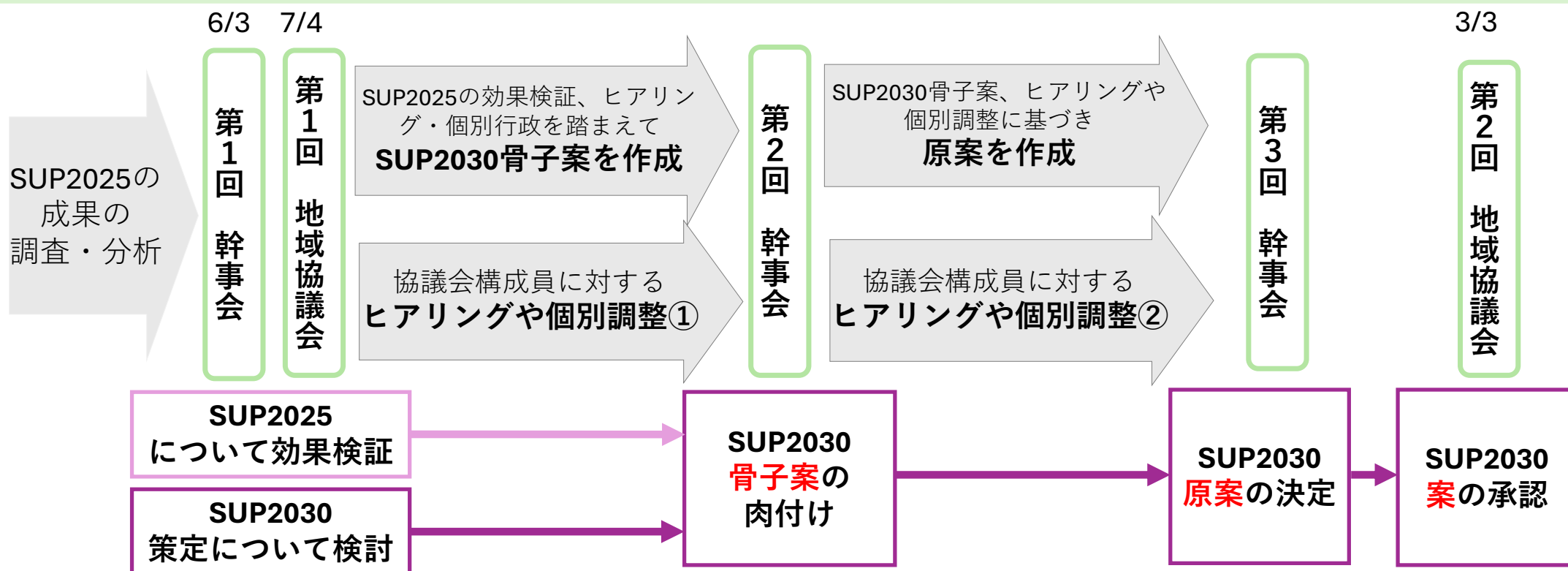
■ 一方、伊勢志摩地域で実施されいい結果が得られた取組も多数あり、伊勢志摩地域で改善したいことや、未来へ引き継ぎたいものの多くは、地域の共通認識。

■ 上記達成するための、伊勢志摩国立公園地域での取り組みは、  
各組織・個人で貢献可能なことは多数実施（予定）されている。

■ 昨年度策定したビジョンを実現するための行動計画として、SUP2030を検討・作成し、地域主体による官民一体となった取組をより一層進める。

## 2. SUP2030策定スケジュール

## 2. SUP2030策定スケジュール



### ■今年度の実施内容

- SUP2025の**達成状況等の現状を調査**し、効果検証を行った上で、整理する。
- SUP2030の検討・作成を行うために、**数値目標等の更新**を行う。
- 昨年度策定した**「伊勢志摩国立公園ビジョン」を実現**するための情報整理。

→ヒアリングや情報提供にご協力お願いいたします。

## 2. SUP2030策定スケジュール

令和7年度地域協議会等予定（案）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域協議会			第1回 (7/4)								第2回 (3/3)	
幹事会		第1回 (6/3)			第2回 (予定)				第3回 (予定)			
ヒアリング、 個別調整、部 会開催など	必要に応じ実施											

### 3. 次期ステップアッププログラム策定方針案

## 次期ステップアッププログラム策定方針案

- SUP2030は、昨年度決定した「伊勢志摩国立公園ビジョン」実現のための行動計画として策定する
- ビジョンを検討・作成した方々の思い・考えや背景を大事にする
- SUP2025の取組を熱心に進めてきた方々の思い・考えや背景を大事にする
- SUP2025で残された課題は精査し、必要に応じてSUP2030に引き継ぐ
- 役割を明確にした具体的でわかりやすい行動計画とする
- 地域の主体性を重視する

### 3. 次期ステップアッププログラム骨子案

# 次期ステップアッププログラム骨子案

## ■表紙

### タイトル

- ・「伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム2030」

### 策定年月日

- ・「2026年（令和8年）〇月」

### 策定主体

- ・伊勢志摩国立公園地域協議会

## ■目次

## ■はじめに

### 背景

- ・政府、環境省、各国立公園が満喫プロジェクトに取り組む根拠等
- 「ステップアッププログラム2025」の踏襲、必要に応じて適宜修正

### 目的

- ・「ステップアッププログラム2030」の策定によって実現したい事柄
- 「ステップアッププログラム2025」の実施状況や各公園の2030年目標等を踏まえ適宜修正

**★昨年度策定したビジョンはここに記載**



△SUP2025の表紙

# 次期ステップアッププログラム骨子案

## 1. 現状分析（2025年までの成果と課題）

### 公園概要

- 基本情報(位置、沿革、地形、気候、動植物、文化、アクセス等)
- 「ステップアッププログラム2025」の踏襲、必要に応じて適宜修正

### 利用概況

- 現在の利用状況及び特性(利用者数、宿泊者数、貢献度、満足度、推奨意向、支出額、平均泊数、認知度、リピーター率等)
- 上記データの経年変化等より、導出される利用概況を整理

### 今後の課題等

- 将来を見据えた懸念事項、新たな動き、中期的(2030年まで)及び長期的(2035年以降)に解決しなければならない問題
- 「ステップアッププログラム2025」の取組実績や周辺の動向の内容を踏まえて記載
- 地域の主体的な取り組みを重点的に支援すること、そのための地域における人材育成が必要な点について記載



△SUP2025の現状分析

# 次期ステップアッププログラム骨子案

## 2. コンセプトと取組の方針（方向性）

### コンセプト

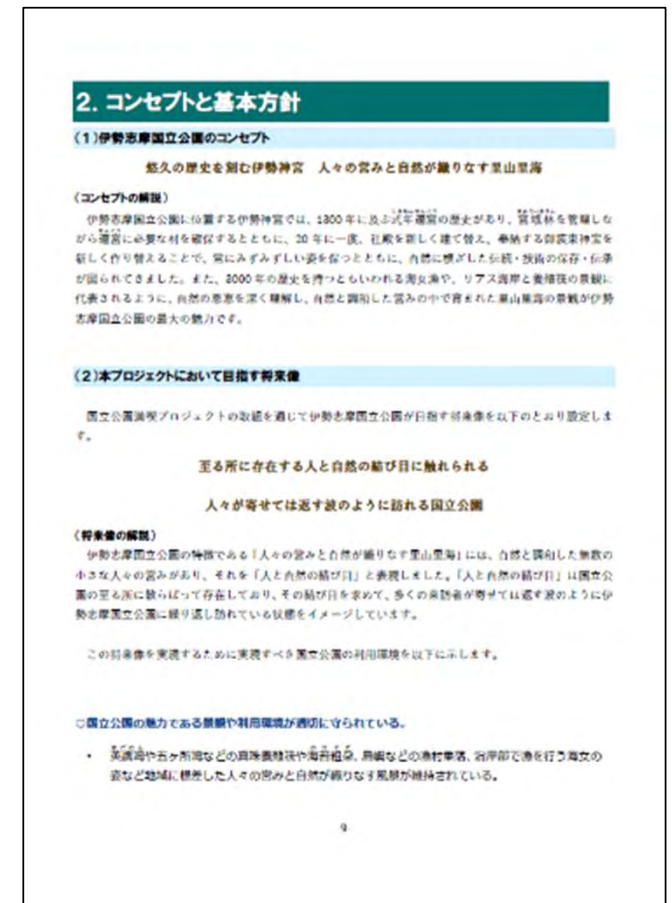
- ・公園の中心となる価値観、公園の存在意義や使命に関する根本的な考え
- 「ステップアッププログラム2025」を踏襲、必要に応じて適宜修正

### 基本方針

- ・「ステップアッププログラム2030」の実行に際して、目指すべき具体的な行動目標
- 2030年に向けた成果指標や注力する取り組みを踏まえて記載

### ターゲット

- ・継続的に利用が見込まれる層（国内/海外）
- ・新たに利用を呼び込みたい層、又その選定理由（国内/海外）
- 各公園の特性を踏まえて、目標達成の為に戦略的に注力するターゲット層を具体的に記載
- ・ターゲットへ提供する「物語（ストーリー）」
- 各公園にて、ターゲットに具体的な刺さる物語を検討している場合には、記載



△SUP2025のコンセプトと基本方針

# 次期ステップアッププログラム骨子案

## 3. 目標と指標

### 2030年に向けた成果指標

- ・ 2030年時点の目指すべき成果指標、及びその具体的な目標値
- 各公園で定める成果指標を記載
- 満喫プロジェクト全体で定める目標についても記載（環境省で設定・集計予定）

#### ★「量」の指標（次期取組方針の変更に応じて、項目修正の可能性あり）

- 国立公園における訪日外国人利用者数
- 国立公園における宿泊者数

#### ★「質」の指標（次期取組方針の変更に応じて、項目修正予定）

- 日本全体の観光や地方誘客に対する国立公園の貢献度
- 国立公園を有する市町村における国立公園の認知度・好感度
- 訪日外国人客数のうち、国立公園を目指し、実際に訪れた人の割合
- 国立公園利用者のうち事前に公園であることを知っていた人の割合
- 満足度
- 推奨意向
- 1人当たり支出額
- 平均泊数
- リピーター率（2回以上）
- 自然体験アクティビティ参加量（人数×金額）

### 4. 目標

新型コロナウイルス感染症の影響により、訪日外国人利用者は大幅な減少が見込まれます。このため、本計画期間にインバウンドの回復と並え、伊勢志摩国立公園の訪日外国人利用者の数を、2025年までに感染症の影響前である2019年の本園で公園の訪日外国人利用者数7.1万人に回復させることを目標とします。

また、国内利用者についても感染症の影響前と同様のレベルまでの回復を目指します。これらの利用者数に加え、宿泊者数、旅行消費額、滞在日数、リピーター率についても感染症の影響前と同様のレベルまでの回復を目指すとともに、満足度についてはさらなる向上を目指します。

#### 訪日外国人利用者数

2019年(R1): **7.1万人**

影響前まで回復

2025年(R7): **7.1万人**

観光客数	訪日外国人					国内				
	人数	消費額	滞在日数	宿泊者数	リピーター率	人数	消費額	滞在日数	宿泊者数	リピーター率
2019年	22,222	18,200	25,563	11,411	23,387	18,200	25,563	11,411	23,387	23,387
2020年	10,000	5,700	12,000	4,100	12,100	5,700	12,000	4,100	12,100	12,100
2021年	8,000	4,500	10,000	3,500	10,000	4,500	10,000	3,500	10,000	10,000
2022年	9,000	5,000	11,000	3,800	11,000	5,000	11,000	3,800	11,000	11,000
2023年	10,000	6,000	12,000	4,000	12,000	6,000	12,000	4,000	12,000	12,000
2024年	11,000	7,000	13,000	4,500	13,000	7,000	13,000	4,500	13,000	13,000
2025年	12,000	8,000	14,000	5,000	14,000	8,000	14,000	5,000	14,000	14,000

△SUP2025の目標

## 4. プロジェクトの実施

### SUP2025

#### <重点施策・集中的に取り組む事項>

- 1) ワークーションの推進
- 2) 交通アクセス等の充実
- 3) 拠点施設の機能強化
- 4) 景観改善
- 5) エコツーリズムの推進

#### <エリア毎の取組事項>

- 1) 伊勢市エリア
- 2) 鳥羽市エリア
- 3) 志摩市エリア
- 4) 南伊勢町エリア

#### <エリア共通の取組事項>

#### <国立公園への誘導・プロモーションに係る事項>



### SUP2030

#### <取組事項>

- 伊勢志摩国立公園ビジョンを実現するための内容
- 環境省本省SUP指針（検討中）を踏まえた内容  
・・・等

# 次期ステップアッププログラム骨子案

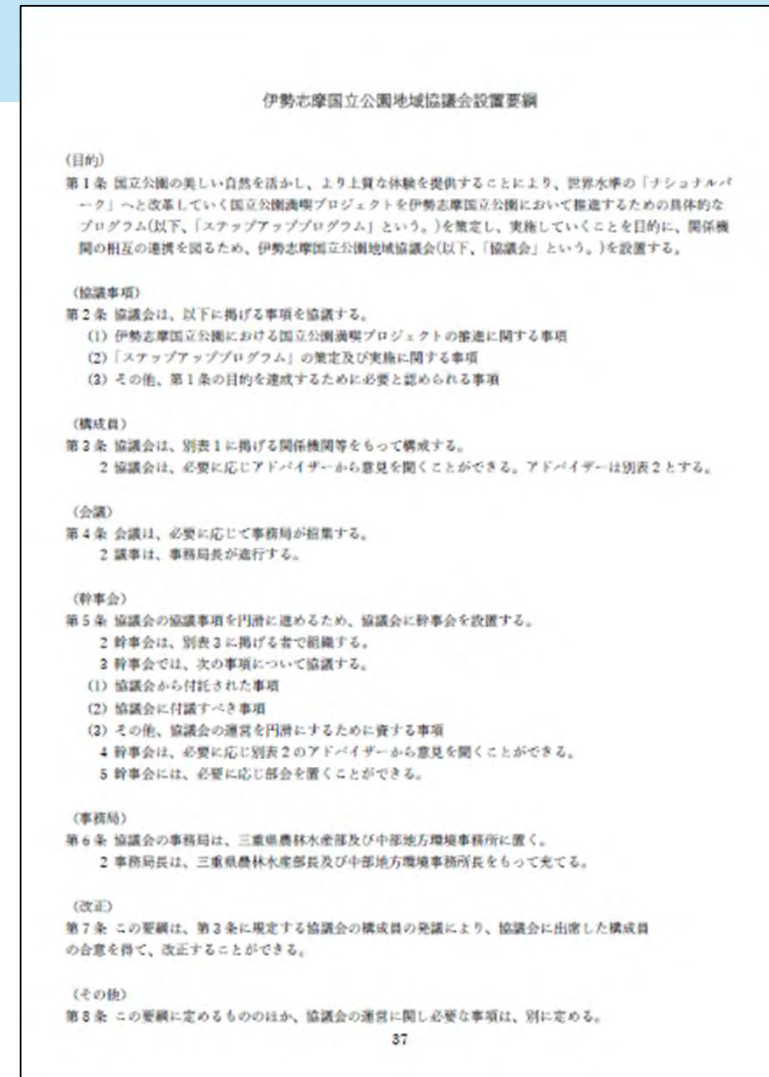
## 5. 推進体制

### 実施体制

- **プロジェクト全体の進捗管理、評価・分析、改善計画策定の実施体制**
  - 実施体制は、現場の実態に即した形で関係者とその役割を整理して記載

### スケジュール

- **プロジェクト全体の効果検証プロセスの年間実施スケジュール**
  - 実施スケジュールは、分析・評価、対策検討、改善まで、現実的に実施可能な範囲で作成



## 6. 効果検証

- ▶ 地域協議会において、取組の進捗状況の把握と目標の達成状況について確認し、取組の効果について検証を行う
- ▶ 必要に応じ取組の見直しを行う